

# 令和4年度 山形県高校生のボランティア活動実態調査

山形県では、地域にねざした青少年ボランティア（通称「YYボランティア」）が盛んで、他県からも「山形方式」として注目されてきました。県教育委員会では、第6次山形県教育振興計画（後期計画）の中で、活力あるコミュニティ形成に向けて児童生徒、青年によるボランティア活動等の地域活動を促進するとともに、地域活動に取り組む青少年リーダーの育成等を推進し、「**高校生のうちボランティア活動に参加した生徒の割合 100% (R6)**」という数値目標を掲げています。各学校や地域の団体での活動、個人での活動等ボランティア活動の実態について、今年度の調査結果をご報告いたします。

## 調査概要

- 【対象者】 県内高等学校（全日制の課程）3年生全員 8,718名
- 【回答者】 7,896名（回答率90.6%）
- 【調査期間】 令和4年夏季休業終了後から令和4年9月下旬まで
- 【調査方法】 調査紙をホームルーム等で配布し回収

## 結果

### 1 高校在学中のボランティア活動経験者率

#### 【公立高校】

- 高校在学中にボランティア活動を行った生徒は 77.1%【79.5%(R3)】
  - ・ 学校の活動以外でボランティア活動を行った生徒は 26.5%【27.1%(R3)】
  - ・ 学校の活動としてボランティア活動を行った生徒は 70.5%【73.7%(R3)】

#### 【私立高校】

- 高校在学中にボランティア活動を行った生徒は 65.6%【62.5%(R3)】
  - ・ 学校の活動以外でボランティア活動を行った生徒は 19.8%【18.5%(R3)】
  - ・ 学校の活動としてボランティア活動を行った生徒は 60.2%【55.4%(R3)】
- 公立と私立を合わせた全高校生の高校在学中のボランティア活動経験者率は 73.5%、学校活動外は 24.4%、学校活動内は 67.3%

### 2 高校生が取り組んでいるボランティア活動分野

- 体験している活動は環境整備(57.3%)が最も多く、次いで文化振興(15.7%)、子育て支援(7.0%)、災害防災支援(5.5%)、福祉・介護(4.9%)、体育振興(3.9%)

### 3 高校生が関心をもつボランティア活動分野

- 最も関心が高い分野は環境整備(21.6%)で、次いで文化振興(21.3%)、子育て支援(14.4%)、災害防災支援(12.3%)、体育振興(11.9%)、福祉・介護(8.3%)

#### 分野ごとの活動内容（例）

【福祉介護】 高齢者・障がい者福祉施設等での活動

【環境整備】 ゴミ拾い、清掃、除草、除雪等

【文化振興】 伝統芸能、地域の行事・文化的イベントの手伝い等

【体育振興】 小中学生へのスポーツ指導、地区運動会やマラソン大会の手伝い等

【その他】 募金活動等、上記の分類以外

令和5年1月  
山形県教育委員会

# I 調査の概要

## 1. 調査目的

高校生によるボランティア活動の実態を明らかにするための基礎資料とすること。

## 2. 調査期間

令和4年8月夏季休業終了後～9月下旬

## 3. 調査対象

〈生徒〉県内高等学校全日制3年生全員

〈学校〉公立高校45校、協力を得た私立高校13校

## 4. 回答者数

〈生徒〉7,896名（回収率90.6%）

〈高校〉58校（回収率100%）

## 5. 調査方法

〈生徒〉調査紙を全生徒に配付して、ホームルーム等を利用して回答記載の上、回収。

〈学校〉調査用紙に3学年主任が回答

## 6. 調査事項（調査票は巻末に掲載）

〈生徒〉

- (1) 高校入学後のボランティア経験に関すること
- (2) ボランティア活動に興味関心に関すること
- (3) Y Yボランティアサークルの認知に関すること

〈学校〉

- (1) 全校を単位としたボランティア活動に関すること
- (2) 学年を単位としたボランティア活動に関すること

## 7. 調査実施機関

令和4年度地域青少年ボランティア活動推進事業として実施

調査票：県教育庁生涯教育・学習振興課

協力依頼・送付・集計：青年の家

## 8. 留意点

- (1) 回答率は小数点以下第2位を四捨五入している。
- (2) マークミスや回答ミスもあり、回答率の合計が100%にならない場合がある。
- (3) 「経験者率及び関心率」＝「質問への該当者数」÷「質問への有効回答者数」

## Ⅱ 調査の結果

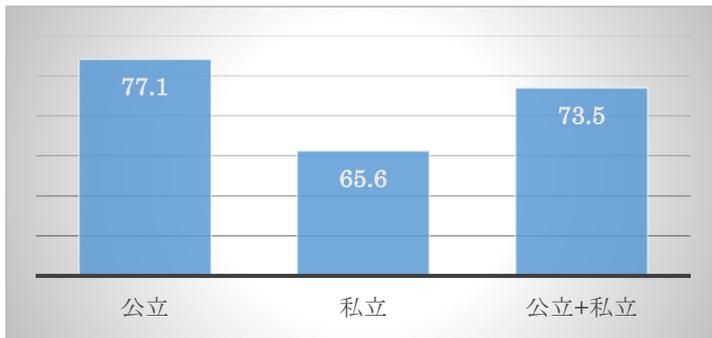
### 1. 高校在学中のボランティア活動経験者率

【経験者率】とは、高校在学中にボランティア活動を経験した生徒の割合

#### (1) 学校の活動内外における経験者率

学校生活内外での経験者率 ○公立 77.1% ○私立 65.6% ○公立+私立 73.5%

【グラフ1：公立、私立別の経験者率】



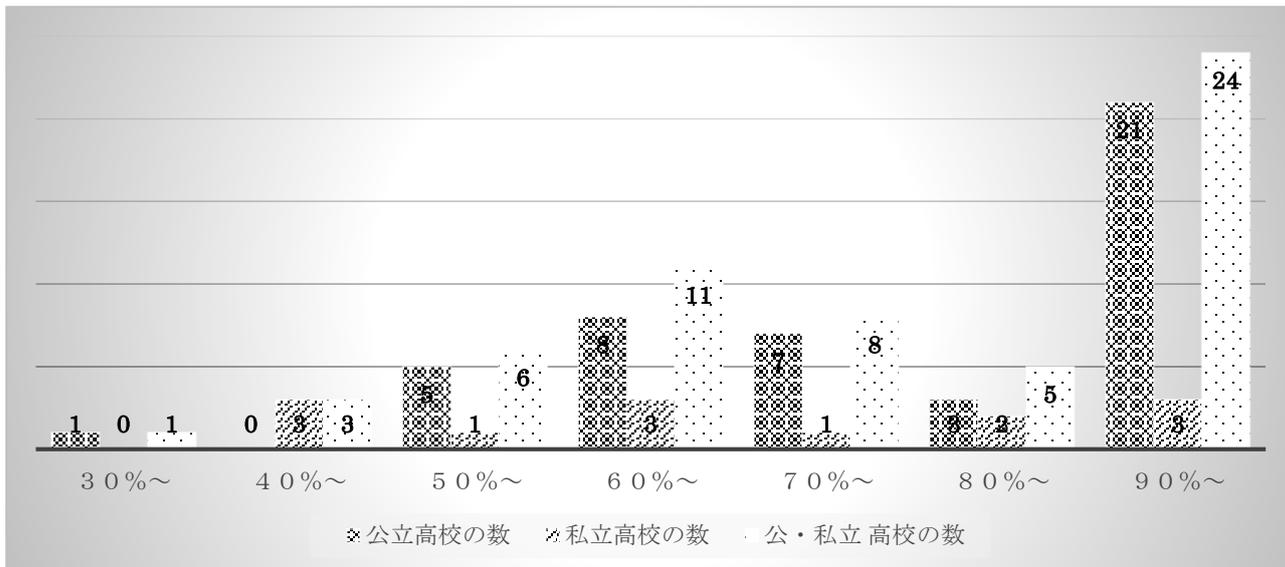
【表1：公立、私立別の経験者率】

校種別	人数	割合
公立 (5,427人)	4,186人	77.1%
私立 (2,469人)	1,619人	65.6%
公・私立 (7,896人)	5,805人	73.5%

【表2：各学校の状況】

各校の経験者率	30%~	40%~	50%~	60%~	70%~	80%~	90%~
公立高校の数	1	0	5	8	7	3	21
私立高校の数	0	3	1	3	1	2	3
公・私立高校の数	1	3	6	11	8	5	24

※公立45校、私立13校

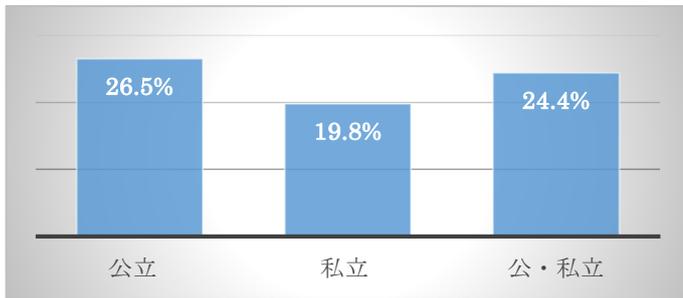


- 高校在学中にボランティア活動を行った生徒は7,896人中5,805人。
- 高校在学中にボランティア活動を行った生徒の割合が80%台を超える高校は58校中29校。

## (2) 学校の活動以外における経験者率

学校生活外での経験者率 ○公立 26.5%、○私立 19.8% ○公立+私立 24.4%

【グラフ2：公立、私立別の経験者率】

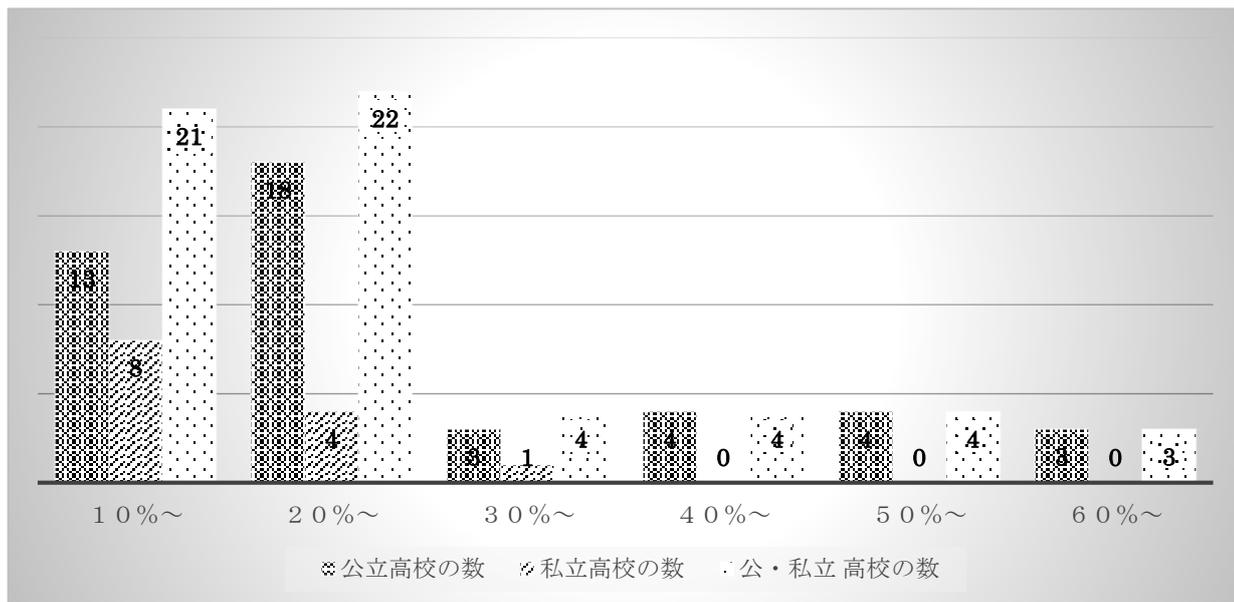


【表3：公立、私立別の経験者率】

校種別	人数	割合
公立 (5,427人)	1,440人	26.5%
私立 (2,469人)	488人	19.8%
公・私立 (7,896人)	1,928人	24.4%

【表4：学校の活動以外、各学校の状況】

各校の経験者率	10%~	20%~	30%~	40%~	50%~	60%~
公立高校の数	13	18	3	4	4	3
私立高校の数	8	4	1	0	0	0
公・私立高校の数	21	22	4	4	4	3



○高校在学中に学校の活動以外でボランティア活動を行った生徒は7,896人中1,928人。

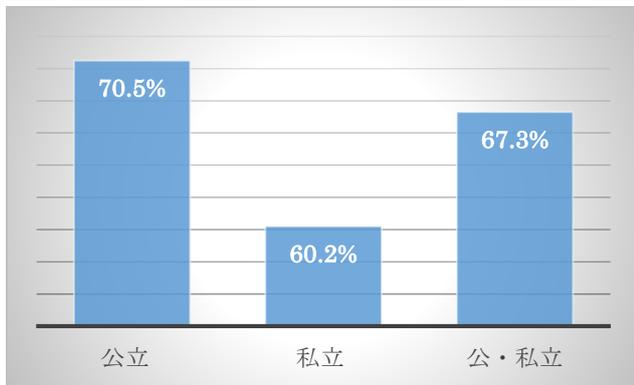
○高校在学中に学校の活動以外でボランティア活動を行った生徒の割合が20%台以下は58校中43校。

### (3) 学校の活動内における経験者率

学校生活内での経験者率 ○公立 67.3%、○私立 60.2% ○公立+私立 70.5%

【グラフ3：公立、私立別の経験者率】

【表5：公立、私立別の経験者率】

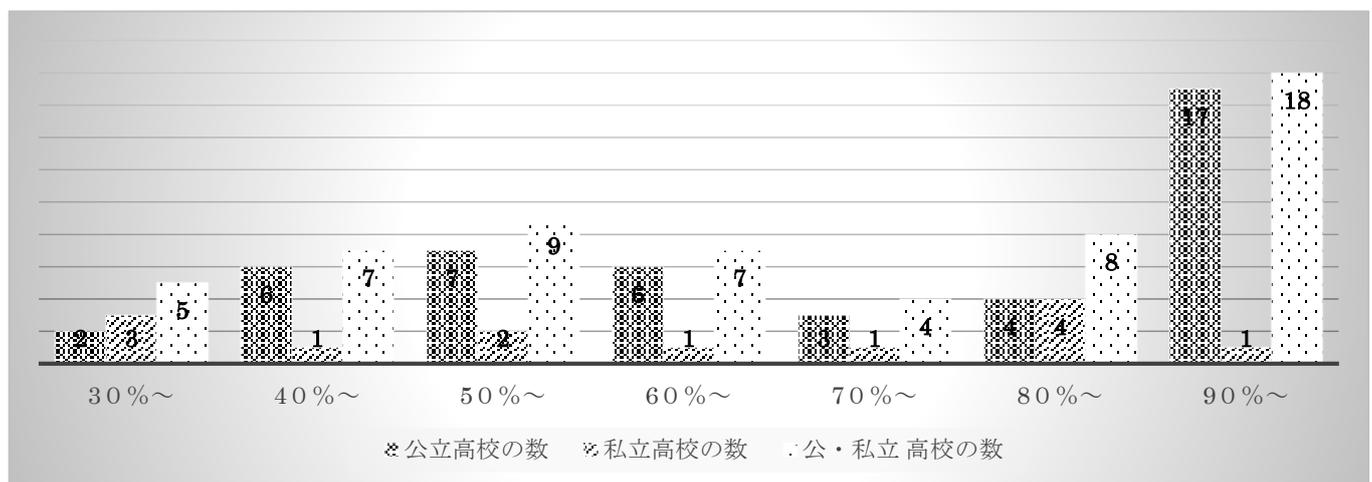


校種別	人数	割合
公立 (5,427人)	3,828人	70.5%
私立 (2,469人)	1,487人	60.2%
公・私立 (7,896人)	5,315人	67.3%

【表6：学校内の活動.各学校の状況】

各校の経験者率	30%~	40%~	50%~	60%~	70%~	80%~	90%~
公立高校の数	2	6	7	6	3	4	17
私立高校の数	3	1	2	1	1	4	1
公・私立高校の数	5	7	9	7	4	8	18

※公立45校、私立13校



○高校在学中に学校内でボランティア活動を行った生徒は  
7,896人中5,315人。

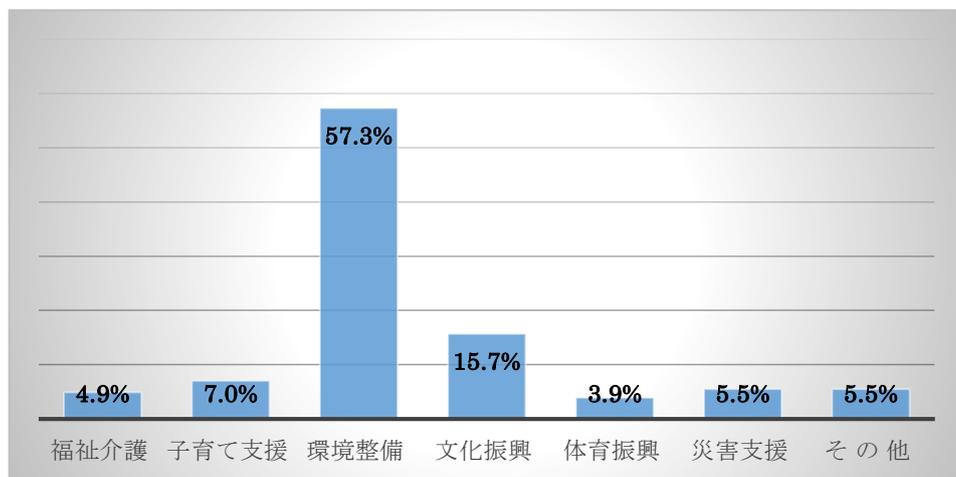
○高校在学中に学校内でボランティア活動を行った生徒の割合が  
80%を超える高校は58校中26校。

## 2. 高校生が取り組んでいるボランティア活動分野（学校内外）

環境整備分野の経験者率(57.3%)が最も高く、次いで文化振興(15.7%)、子育て(7.0%)と続く。

【グラフ4：分野別の経験者率 複数選択】

【表7：分野別の経験者率 複数選択】



分野	割合
福祉介護	4.9%
子育て支援	7.0%
環境整備	57.3%
文化振興	15.7%
体育振興	3.9%
災害支援	5.5%
その他	5.5%

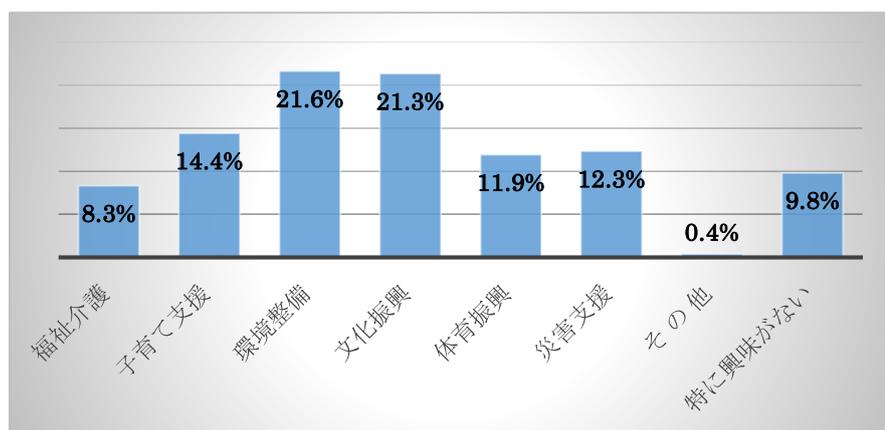
## 3. 高校生が関心をもつボランティア活動分野

【関心率】とは、関心を持つ分野として選択した生徒の割合

環境整備分野の関心率(21.6%)が最も高く、次いで文化振興(21.3%)、子育て支援(14.4%)と続く。

【グラフ5：分野別の経験者率 複数選択】

【表8：分野別の経験者率 複数選択】

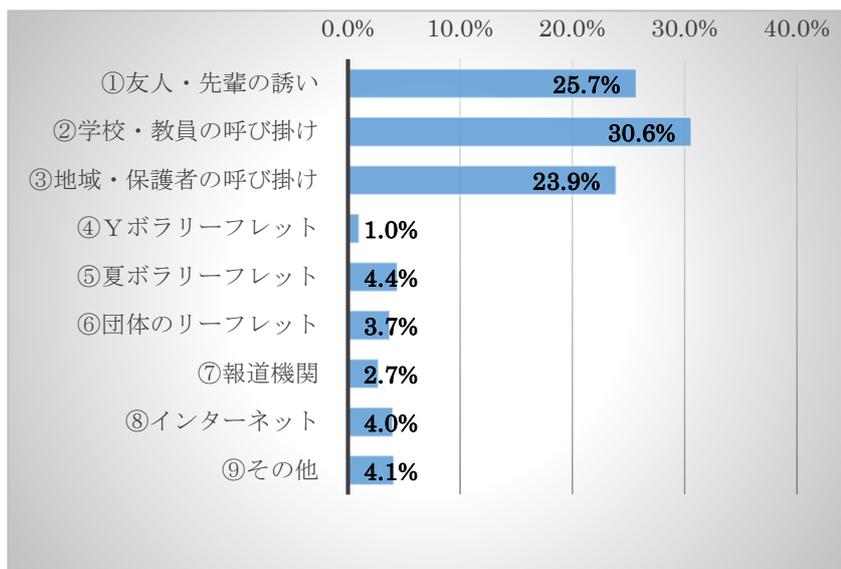


分野	割合
福祉介護	8.3%
子育て支援	14.4%
環境整備	21.6%
文化振興	21.3%
体育振興	11.9%
災害支援	12.3%
その他	0.4%
特に興味がない	9.8%

#### 4. 学校の活動以外の「ボランティア活動」に参加するきっかけ

学校・教員の呼び掛け(30.0%)がもっとも多い。次いで、地域・保護者の呼び掛け(29.4%)、友人・先輩の誘い(24.6%)の順に多い。

【グラフ6：ボランティア活動に参加するきっかけ 複数選択】 【表9：ボランティア活動に参加するきっかけ 複数選択】



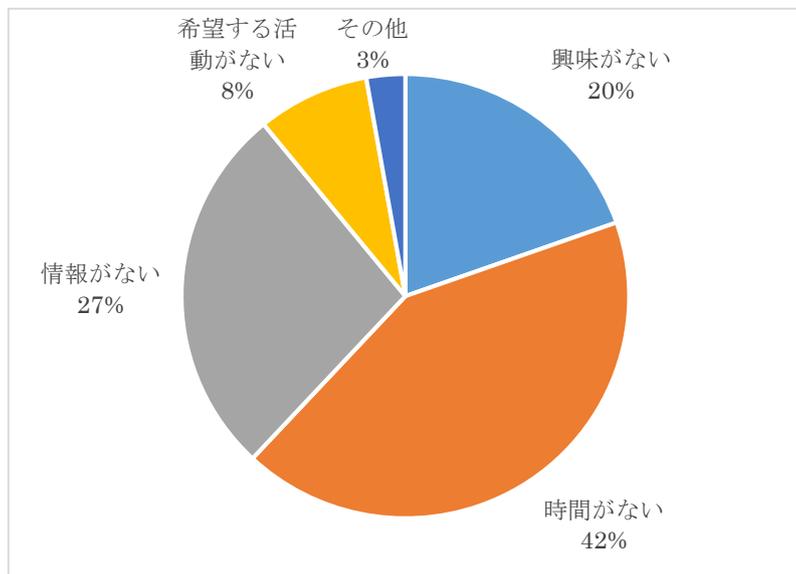
分野	全体
①友人・先輩の誘い	25.7%
②学校・教員の呼び掛け	30.6%
③地域・保護者の呼び掛け	23.9%
④Yボラリーフレット	1.0%
⑤夏ボラリーフレット	4.4%
⑥団体のリーフレット	3.7%
⑦報道機関の記事や番組	2.7%
⑧インターネット	4.0%
⑨その他	4.1%

#### 5. 学校の活動以外の「ボランティア活動」に参加しない（できない）理由 全般的な状況

時間がない(42.3%)、情報がない(27.1%)が、合わせて7割に及ぶ。

【グラフ7：参加しない理由】

【表10：参加しない理由】



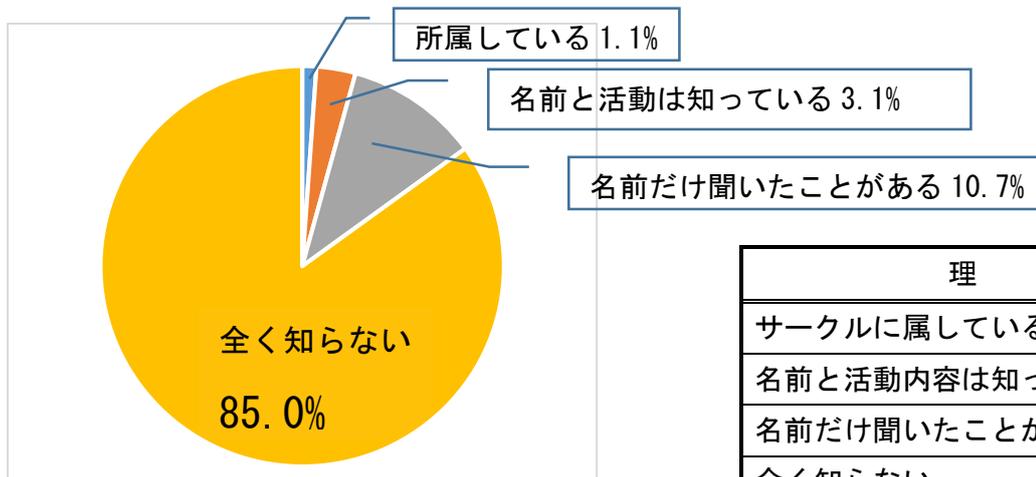
理由	全体
興味がない	19.6%
時間がない	42.3%
情報がない	27.1%
希望する活動がない	8.1%
その他	2.8%

## 6. Y Yボランティアサークルの認知度

Y Yボランティアサークルとは、各市町村や地域の人によって運営され、高校生や中学生が学校の枠を超えて活動するサークルのこと

Y Yボランティアサークルについての認知度が低い。

【グラフ8：Yボラサークルの認知度】



【表11：Yボラサークルの認知度】

理 由	全体
サークルに属している（属していた）	1.1%
名前と活動内容は知っている	3.1%
名前だけ聞いたことがある	10.7%
全く知らない	85.0%

## 7. 学校用アンケートについて

入学してからの3年間、高校3年生を対象とした学校全体としての取組みと、学年としての取組みについて調査を実施した。（対象高校：58校）

- 学校行事の一環として、全校生徒を対象としたボランティア活動を行ったのは26校。  
内15校は毎年行ったと回答。
- 学校としてLHRなどで「ボランティア活動」を行うよう全クラスに指示している学校は29校。
- 学年として、全クラスを対象としたボランティア活動を行ったのは20校。  
内9校は毎年行ったと回答。
- 学年としてLHRなどで「ボランティア活動」を行うよう全クラスに指示している学校は22校。
- 学校全体もしくは学年で行っていない主な理由は  
「コロナ感染症拡大のため」、「希望制で個人の活動だから」、「生徒会・部活等では行っている」、  
「行事の精選」、「在籍人数の関係で学校や学年ではできない」、「探究型学習で地域貢献活動  
を行っている」等でした。